

～会場を含めた意見交換を行いました～

【民泊について】

E：現在、幡多のほうで修学旅行生をかなり受け入れていると思うんですが、その中で民泊を1泊入れるという話を聞いたことがあるんですが、なかなか物部川流域はそういう民泊の受け入れ体制ができてないと思います。多分、そういうものができていけば修学旅行も高知県にたくさん来てくれるのではないかと思います。県でやっていくというのがありますでしょうか。

知事：民泊の方々、いわゆるグリーンツーリズムに取り組んでいらっしゃる方々と、「対話と実行」座談会でお話したことがあります。やっぱりそれぞれで、一つの決まった定型というのはなくて、それぞれ発祥のもと考え方も違う、どちらかというビジネスを考えている方もいれば、いわゆる文化活動と捉えている方もいたりして、それぞれだと思えます。ただ、四万十川流域に定着したのは、やっぱり四万十川ブランドというのが非常に大きかったと思います。なぜここで民泊をするのかということについて、やっぱり一つ物語みたいなものが必要なかもしれない。

民泊について思っているのは、それぞれやっぱり地域の特性を活かして、地域の人が自分で取り組んでいただくということが、非常に大きいと思っています。そういう意味でさっき（地域拠点ビジネスについて）申しましたけど、地域の集落の中で、その集落の例えば美しさとか、食べ物などを生かして、それでグリーンツーリズムなどを自発的にやっていくという場合には、こちらとしてもバックアップしていくという方向で考えています。

【農業関係者との座談会】

G：最後をお願いしたのは、こういった座談会を農業関係なら農業関係だけのメンバーとの会を、一度といわず二度、三度ととっていただければありがたいと思います。

知事：分かりました。この前の2年間は、そうやって団体を絞ってやらせていただきましたが、（今回は）地域としてお話をさせていただきました。

農業団体の方だけの議論の場を作ったり、青年農業士だけとか、女性の方だけとかいろいろやっています。「対話と実行」ですから。

【南海地震対策を進めるうえでの規制緩和について】

傍聴A：南海地震対策で、沿岸の市町村は大変だと思いますが、私ども南国市においても東日本大震災の状況を見ると大変心配です。海岸沿いにできるだけ避難場所をとということで、ビルを建てるとか堤防のかさ上げもお金もかかり大変です。海岸沿いに大きな高台の公園を作るとか、公園のような形にして整備をするとか、そういったことが手っ取り早いんじゃないかと思います。その時に問題になる農用地の規制を県の指導のもとに緩和をして

いただいて、そういったことが速やかにできる状況を是非作っていただきたいと思います。

知事：ご指摘の通りだと思います。本当に緊急課題だと思いますので、研究します。ちなみに沿岸部も含めてどういう施設が一番いいかというのは、結構ケースバイケースで、津波避難計画使って山に逃げる避難路を作るのが一番いいところもありますし、津波避難タワーがいい場合、魚市場の上の駐車場で助かった例もありますので、いずれにしても逃げられる場所づくりというのは、様々な地域で実施したいと思います。

できれば津波タワーは、下は子どもが遊べるようになっているとか、下は「あったかふれあいセンター」として使えるとか、多用途にしておいて、日頃からそこに人が集ってくるようなふうにしておけば、いざ避難というときに人々の手が行き渡るでしょうから、そういう意味でいろいろ工夫します。

それともう一つ、高さは大丈夫かとよく言われることがありますが、今、新しくしようとして、避難タワー作ろうとして1回工事を止めました。再設計して今後想定が見直されていっても、想定に対応できるようなものをしてきたいと思います。